

静岡県で活躍する医師



JA静岡厚生連静岡厚生病院
病院長（外科）
水野 伸一 医師

院長に就任してからの現況を教えてください。

水野 医師

当院は急性期病棟と、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟を併せ持つ、旧静岡市内では唯一のケアミックス型の公的病院であり、地域の住民や医療機関、介護施設から期待される点は、急性期医療と介護や在宅診療の間をつなぐ役割を果たすことだと思います。その役割を十二分に果たせる病院であるよう、職員とともに努力しています。

当院の理念は「愛される病院を目指す」であります。これは、地域の人たちからも、職員からも愛される病院を目指すということです。私がこの病院に赴任した30年前から感じている、当院のストロングポイントは、看護師、技師などの職員が患者さんに優しいことだと思っています。しかし、これは病院を受診していただいて初めて、実感していただけるものですので、この良さを地域の人たちに理解していただくためには、地域の皆さんが受診したい病院になることが必要です。そのため、救急を含めたcommon diseaseに対する急性期医療、回復期医療を充実させることに注力しております。それによって自分達の病院に自信が持てれば、職員からも愛される病院になると信じています。

医師をこころざしたきっかけを教えてください。

水野 医師

中学生の頃に「フランドルの冬」という小説を読んで、精神科医で小説家の加賀乙彦氏のファンになりました。加賀さんの初期小説群「フランドルの冬」「風と死者」「荒地を旅する者たち」「夢見草」などに感化されて中3のころに精神科医になろうと思い立って、医学部に進学することを決めました。



外科を専攻したきっかけと魅力について教えてください。

水野 医師

大学に入ってからずっと精神科医になるつもりでしたが、大学5年の3月に、当時の名大非入局ローテートの卒後研修パンフレットを作るための病院アンケートで伺った、安城市の八千代病院 七野滋彦院長の「ポリクリまだだったら、第一外科の二村先生の手術を見てみろ」との言葉で一般外科に初めて目が向きました。肝門部胆管癌の手術を2例ほどみせていただいたのですが、精緻な術前診断と、ダイナミックな手術に魅了されました。その時は、まだ外科医になることは決めていなかったのですが、その縁で、卒後八千代病院で御世話になることになり、結局一般外科の道に進みました。

外科系の診療科は一人の患者さんを診断から、治療まで診ることができるのが魅力だと思います。外科医の仕事は、手術をすることはもちろんですが、手術の適応を判断することが、手術をする以上に重要な仕事ではないかと考えています。

医師を目指す方や若手医師へのメッセージをお願いします。

水野 医師

医師として、技術と知識を積み上げていくことは、とても重要です。書物や先輩医師から多くのことを学ぶことが必要です。しかし、患者さんとの交流は、それ以上の学びにつながるがあります。

若手医師の皆さんには、なるべく多くの時間を患者さんとのコミュニケーションに割いていただいて、患者さんにとって身近で、相談しやすい存在となってほしいと思います。それにより、話しにくい悩みや症状を聞くことができ、検査や診察では見えてこなかったことが見えてきます。患者さんの症状と勉強した知識が合致し、診断に至った瞬間や、患者さんが他の人には言えなかった思いを打ち明けてくれたときは、皆さんにとって生涯忘れることができない経験になると思います。

コミュニケーション能力を磨くことは、臨床医に最も必要とされることの一つだと思います。是非、患者さんやチーム医療を担う仲間たちとのコミュニケーションをとる達人になってください。



■プロフィール

水野 伸一 医師

趣味

- 中日ドラゴンズの応援
- 演劇鑑賞
- 70年代ロック鑑賞

経歴

- 1986年3月 名古屋大学医学部卒業
- 1986年4月 八千代病院（愛知県安城市）に勤務し、
9月 名古屋大学第一外科入局
- 1990年7月 名古屋大学第一外科研究員
- 1990年10月 癌研究会付属病院 研修医
- 1991年11月 国家公務員等共済組合連合会 名城病院外科
- 1993年4月 名古屋大学第一外科 研究員・医員
- 1995年7月 JA静岡厚生連静岡厚生病院外科医長
- 2006年4月 同 副病院長
- 2017年4月 同 病院長